

1 はじめに

今回のイラン渡航は、21世紀COE史資料ハブ地域文化研究拠点プロジェクトが目指すところの、「現地諸機関と協力しながら、共同研究やアジア・アフリカ・ラテンアメリカの現地語資料の収集・保存・情報化などの共同作業を推進し、アジア太平洋地域における中核的なリサーチ・ハブ化」構想の一環として、イラン・イスラーム共和国の諸機関との関係構築に向けての予備折衝が基本的な目的であった。

今回のイラン出張にあたって、予め、交渉相手として予定していた機関は、『文化遺産・偉人顕彰協会(Anjoman-e Āthār o Mafāher-e Farhangī)』、『イラン学研究事業団(Bonyād-e Īrānshenāsī)』、『イラン現代史研究所(Moḡassese-ye Motāle'āt-e Tārikh-e Mo'āser-e Īrān)』、『アースターネ・ゴドゥス・ラザヴィー中央図書館(Ketābkhāne-ye Markazī-ye Āstāne Qods-e Razavī)』の4カ所であった。最初の3機関の所在地は首都テヘランであるが、残る1機関はテヘランから900km程離れたイラン東部の主要都市マシュハドに位置していることもあって、一ヶ月弱の日程(2002年12月19日に日本を発ち、2003年1月13日帰国)では、個々の機関と時間的に十分に余裕を持った折衝を行い得たとは必ずしも言えない。しかし、結果的には、『文化遺産・偉人顕彰協会』、『イラン学研究事業団』、『アースターネ・ゴドゥス・ラザヴィー中央図書館』の3機関からは前向きな回答を引き出すことが出来た。特に、最も豊かつ貴重な蔵書を誇る『アースターネ・ゴドゥス・ラザヴィー中央図書館』のバラダラン館長からは、蔵書の利用に際しては全面的な協力をする旨の約束を取り付けることが出来た。ただ、『イラン現代史研究所』とは、実質的に踏み込んだ交渉を行う機会を作ることが出来ず、今回は具体的な成果を手にすることが出来なかった。その一方で、当初からの目当てであった『アースターネ・ゴドゥス・ラザヴィー中央図書館』との折衝のために訪れたマシュハドでは、思いがけずに、当地のフェルドゥスィー大学の関係者と接触する機会を得て、本プロジェクトが掲げる現地語(ペルシア語)資料の収集・保存・情報化に関して積極的な協力を得られる旨の返答を得ることが出来た。

以下に、今回、提携に向けての予備折衝を行った諸機関に就いての簡単なプロフィールを紹介しておく。

2 提携交渉対象諸機関

2-1 『文化遺産・偉人顕彰協会』

本協会の前進である『国民の遺産協会』は1922年の秋に、「イランの古い学術・工芸遺産に対する大衆の関心を育み、美術・工芸品類を保存し、その伝統的様式を守るべく努める」ことを基本目的として創設された。時あたかもレザー・ハーンによるクーデターが断行された直後のことである。この3年後に彼は自らシャー(国王)に即位し、1979年にイスラーム革命により打倒されることになるパフラヴィー王朝をうち立てるのである。『国民の遺産協会』創設メンバーにはこのレザー・シャー王朝体制を担うこととなる錚々たる顔ぶれが連なっていた。同協会は、その後、パフラヴィー体制下において、イランの地に関わる歴史・文化遺産をイラン国民の遺産と位置づけ、その保存と顕彰、そして研究に邁進した。イスラーム革命の勃発は、同協会に一時的閉鎖を強いたものの、1987年には再編・再建され、『文化遺産・偉人顕彰協会』と名前を変えて、1994年には実質的活動を開始した。その趣旨と目的を定めた定款の第一条には次のようにある。「イスラームおよびイランの文化・文明の分野における学者や思想家を紹介・顕彰し、彼らが残した貴重な作品を蘇らせ、出版すること。また、イスラームおよびイランの文化・文明に関する作品、更には、その向上と発展にしめるイラン人の役割を周知せしめること。」これを見る限り、イスラームにも強い関心を向けている点を除けば、基本的には、その目的・性格共に、『国民の遺産協会』と大きく変わることはなく、表向きの衣替えはともかく、国民国家イランにおける役割と言う意味では、『国民の遺産協会』の継承組織と考えられる。

その意味で、本協会はイラン学、イラン地域研究の分野においては応分の蓄積と実績を有する機関である。『国民の遺産協会』時代からの分も併せると240点にも上る関連分野の出版物を有し、蔵書数は30,000点とそれ程多くはないものの、150点を数える写本をはじめ、当該分野の極めて貴重なコレクションを有している¹

2-2 『イラン学研究事業団』

本機関の設立は、1997年5月と比較的新しい。定款によれば、その目的は以下の通りである。

- 1: イラン学に関心をもつ文化人・研究者・学生が研究を行い、また、その利益に与ることが出来るような然るべき環境の整備。

- 2: イラン学の分野における科学的研究の組織化と調整、当該分野における適切かつ斬新な方法論の援用、学際的研究における新たな方法論の創出および、イランおよび外国においてイラン学研究に携わる諸機関にそれらを提示すること。
- 3: イラン文化・文明の歴史的過去に関する、イラン社会・文化的諸団体の情報と知識を底上げし、彼らの祖国愛の感情と理念を強化し、国民アイデンティティと外国からの公然・隠然たる様々な文化攻勢に対する対抗力の強化

これを見る限り、その目的と役割において、『文化遺産・偉人顕彰協会』と重なる部分もあり、事実、両者は相互に緊密な連携体制を取っていると思われる。また、両者共に、新生イスラーム共和国政府の意向を強く反映している機関であることも間違いない。特に、『イラン学研究事業団』は、当初、そのトップに大統領の主席補佐を務めるハサン・ハビービー博士が据えられたことから分かるように、国家的事業の一環として創設された経緯を有している。1998～99年にかけては、全国28州の内13州(東・西アゼルバイジャン州、アルダビール州、ガズヴィーン州、テヘラン州、ケルマーンシャーハーン州、ロレスタン州、中央州、チャハール・マハール&バフティヤール州、ヤズド州、コフギールイェ&ボイエル・アフマド州、ブーシェフル州、スイースターン・パルルチェスターン州)に支部が設置され、その活動も全国規模にまで拡大された。とはいえ、今現在は、活動を始めたばかりであり、蔵書量、集積されている情報量ともに、他を圧倒するとは言いがたいが、近い将来に、イラン学の分野で貴重な役割を担うようになることは間違いない。特に、イランの地方史・誌関係の文献の収集と関連情報の集積においては、中心的存在になるとと思われる。²

2 - 3 『アースターネ・ゴドゥス・ラザヴィー中央図書館』

本図書館は、イラン・イスラーム共和国の国教に定められているシーア派12イマーム派(ジャアファリー派)の歴代のイマームの中でも特に重要な8代目イマーム・レザー廟の付属施設のひとつとして設置されている図書館で、イランのみならず中東・イスラーム世界にあって有数の規模を誇り、歴史的にも最も古い図書館の一つである。しかし、その創設年代は必ずしも定かではなく、ヘジュラ暦4世紀半ば(西暦10世紀後半)まで遡って考える研究者もいる。

史料上ははっきりしているのは、マシュハドにおいてマスジドやマドラセ、その他の宗教施設の造営に意を尽くしたティムール朝第三代シャー・ロフ(在位1409～47)の時代に、本図書館もその存在の重要性が高まったことである。蔵書数も時代とともに増加の一途を辿った。例えば、1302年Q(西暦1884～85年)には2,116冊(刊本490冊、写本1,626冊)であったものが、1344年Q(西暦1925～26年)には3,344冊、1353年Kh(西暦1974～75年)には74,558冊、イスラーム革命直前の1357年Kh(西暦1978～79年)には刊本・写本を合わせて77,801冊に達した。イスラーム革命後における蔵書数の増加は更に著しく、1376年Kh(西暦1997～98年)には優に465,000冊を超える蔵書量を誇るまでになった。以下にその内訳を示しておこう。

刊本総数(中央図書館のみ)	410,421冊
写本総数(中央図書館のみ)	34,551冊
写真本総数(中央図書館のみ)	1,366冊
マイクロフィルム	39,000巻
逐次刊行物冊数	18,000冊
逐次刊行物点数	3,800点
所蔵総タイトル数	110,000点 ³

2 - 4 『フェルドゥスィー大学』

フェルドゥスィー大学は1949年に創設された国立総合大学であり、テヘラン大学、タブリーズ大学、エスファハーン大学、シーラーズ大学と並んで、全国でも有数の規模と実績を誇る国立大学である。その名称は、言うまでもなく、当地出身で、イランの創成伝説を謳った英雄叙事詩『王書』で有名な11世紀の詩人フェルドゥスィーに因んでいる。現在、同大学は11の学部(農学部、芸術学部、基礎科学部、経済・経営学部、教育・心理学部、工学部、文学・人文学部、数理科学部、体育学部、神学・イスラーム学部、獣医学部)から成り、約700名の常勤スタッフと15,000名の学生を擁している。

今回、提携に向けての折衝を試みたのは、文学・人文学部である。同学部の創設は1955年であるから、同大学としては比較的早い時期の創設にかかる。しかも、イラン・イスラーム革命の思想的土壌を築いたイデオログとして、現在、イラン国内で多大な尊敬と関心を集めているアリー・シャリーアティー博士を輩出した学部と

して、全国的にもますます評価が高まりつつある。因みに、東京外国語大学は、ペルシア語専攻所属の外国人教師として、現在までに、同学部の言語・ペルシア文学科所属の教授であるモハンマド・ジャファル・ヤーハッギー博士と、言語学科所属のナーデル・ジャハーンギーリー博士の二人を招聘する機会を得ている。

さて、同学部付属図書館は、55,000冊のペルシア語文献、25,000冊の欧米語文献、15,000冊のアラビア語文献を有しているが、特筆すべきは、521点に上る写本コレクションである。このうちの21点は、世界的に見ても極めて貴重な稀覯書と云うるものである。⁴

2 - 5 『イラン現代史研究所』

イスラーム的価値に立脚した国家形成と社会づくりを標榜するイスラーム共和国政権は、パフラヴィー体制をトータルに否定することを通じて自らの正当性を主張すべく、イラン近代史全体の見直しと、否定されるべきパフラヴィー体制そのものの実体解明の必要性に迫られた。本研究所は、そうした課題を担うべく誕生した機関の一つである。

設立は1987年はじめ、丁度イラン・イラク戦争が最終段階に突入し、イスラーム革命政権も自らの存亡をかけた挙国体制作りには汲々としている時期である。本研究所が発行している紹介パンフレットによれば、設立の目的は、革命の過程で多数のイラン近現代史関係の重要な史料・貴重な歴史史料が「非抑圧者・イスラーム革命献身者事業団」の管理するところとなり、そうした史・資料の収集・管理を組織的に行うことにあった。因みに、「非抑圧者・イスラーム革命献身者事業団」とは、ホメイニー師が1979年3月にパフラヴィー王家の財産の整理を指示したことを受けて設立された機関である。

1997年には大幅な組織替えが行われ、研究部門と事業部門も新たに設置された。その結果、当初はあくまでも、史・資料の収集・整理・保管・管理に主たる目的が設定されていたものが、研究活動およびその成果の公表に次第に重心を移してきているように思われる。研究成果の開示手段としては季刊誌『イラン現代史研究』が出版されている。ともかく、現在、国内・国外を問わず、イラン近現代史研究の分野では、最も活発に活動し、注目を集めている機関である。⁵

3 おわりに

今回のイラン訪問では、『文化遺産・偉人顕彰協会』『イラン学研究事業団』『アースターネ・ゴドゥス・ラザヴィー中央図書館』『フェルドゥスィー大学』の4機関との間に、本プロジェクトが目指す史・資料ハブ地域文化研究拠点構想に向けての協力・提携関係の構築に成功した。一方で、『イラン現代史研究所』とは更に交渉を結ぶ必要があるし、これ以外にも、イラン国内では圧倒的蔵書量と情報収集能力を有する『テヘラン大学中央図書館』および『イラン国民図書館』とも、今後、協力・提携関係の構築に向けて更なる努力が傾けられるべきと考える。

注

- 1 詳しくは、拙稿、「文化遺産・偉人顕彰協会の役割と実績 革命を越えた使命を帯びて」、『イスラム世界』第59号、2002年、71-83頁参照。
- 2 Bonyād-e Īrānshenāsī, *Āshenāyī bā Bonyād-e Īrānshenāsī*, Enteshārāt-e Dāyere-ye Sabz, 1381 Kh 参照。
- 3 Edāre-ye Koll-e Ketābkhāne-ye Markazī va Markaz-e Asnād-e Āstān-e Qods-e Razavī, *Negāhī Godharā be Ketābkhāne-ye Markazī va Markaz-e Asnād-e Āstān-e Qods-e Razavī*, 1376 Kh 参照。
- 4 Setād-e Panjāhomīn Sāl-e Taʾsīs-e Dāneshgāh-e Ferdowsī-ye Mashhad, *Tārīkhche va Rāhnemā-ye Dāneshgāh-e Ferdowsī-ye Mashhad*, 1378 Kh 参照。
- 5 詳しくは、拙稿、「イラン現代史研究所とイラン近現代史研究」、『史朋』no.30、1998年、26-41頁参照。